

地盤改良の生産性向上、環境負荷低減を実現

WILL-m工法

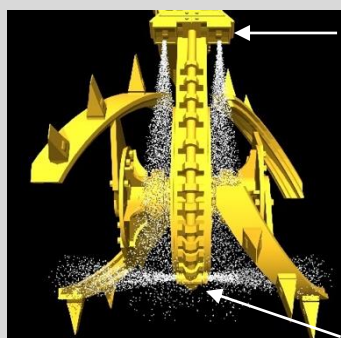
新たな噴射機構搭載による施工の高速化

従来型WILL工法とWILL-m工法の比較



施工機械全景

	吐出口	吐出圧	スラリー供給量 (L/min)
従来型 WILL工法	下部	1MPa	240
WILL-m工法	上部	10MPa以上	400
	下部	1MPa	



新設上部吐出口
(高圧噴射)

従来下部吐出口
(低圧吐出)

WILL-m工法攪拌翼

- ・攪拌翼上部に新たにスラリー噴射機構を設置
- ・スラリーの噴射エネルギーにより、攪拌性能を大幅に向上
- ・短時間で均質な改良体を造成
- ・施工時間短縮に伴うコスト削減・CO₂排出量低減を実現
- ・NETIS：多方向スラリー揺動攪拌工法「WILL-m工法」
(登録番号：QS-220044-A)